

	<b>小林秀雄著『本居宣長』:各章主題の「關係論」的纏め</b>
十四章	①『源氏』[「めでたき器物(物:場 C')」]②『めでたさの秘密』(物:場 C')③『其時のならひ』(物:場 C')④作家(式部。物:場 C')⇒からの關係:⑦が何を置いても語りたかつたのは①の②。即ち「⑤:①の表現(とは、③を自己の内的表現の素材と化した努力)の充實と完璧との力。及び③を吾が物とした④の制作の自由である」(D1の至大化)⇒「⑥:宣長の下心」(⑤的概念F)⇒E:⑥を「これら評釋に讀む事が可能となる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△枠):①②への適應正常。
十五章	①『源氏物語』(物:場 C')②『あはれ』といふ歌語(物:場 C')③『あはれ』といふ日常語(物:場 C')④開放される姿(物:場 C')⇒からの關係:日常生活の心理の動きが活寫(D1の至大化)された①に⑦は「⑤:②が③に向つて④を見た」(D1の至大化)⇒「⑥:日常の用法の眞ん中」(⑤的概念F)⇒E:⑥で、この言葉(『あはれ』)の發生にまで逆上りつつ、この言葉の意味を掘み直さうとした。この努力が『源氏』論に一貫してゐる。これを見失へば、⑦の論述は腑抜けになる」(⑥への距離獲得:Eの至大化)⇒⑦宣長(△枠):①への適應正常。
十六章	

### (物:場 C')

十四章:①『源氏』[「めでたき器物(物:場 C')」]②『めでたさの秘密』(物:場 C')③『其時のならひ』(物:場 C')④作家(式部。物:場 C')

十五章:①『源氏物語』(物:場 C')②『あはれ』といふ歌語(物:場 C')③『あはれ』といふ日常語(物:場 C')④開放される姿(物:場 C')

十六章:

### からの關係(D1の至大化)

十四章 ⑦が何を置いても語りたかつたのは①の②。即ち「⑤:①の表現(とは、③を自己の内的表現の素材と化した努力)の充實と完璧との力。及び③を吾が物とした④の制作の自由である」(D1の至大化)

十五章 日常生活の心理の動きが活寫(D1の至大化)された①に⑦は「⑤:②が③に向つて④を見た」(D1の至大化)

十六章:

